

報告文献別一覧表(2006/4/1~2006/8/31)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
2	A型肝炎	ProMED20060408-0040	オークランド地区公衆衛生局(ARPHS)とニュージーランド保健省は、オークランド地区のA型肝炎集団発生の調査中であり、2006年1月15日から4月7日までの間に29人の患者を確認した。患者には、潜伏期間内のトンガ(13人)とサモア(9人)への渡航歴もしくは最近海外旅行から帰国した人との濃厚な接触が共通項として認められた。
3	B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
4	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBe抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
5	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
6	C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
7	C型肝炎	J Hosp Infect 2006; 63: 65-69	使用に衛生的な問題があった毛細血管血糖測定器(Roche Diagnostics社製 Glucotrend)を介して、HCV感染者から非感染者への伝播が発生した。同病院ではこの測定器を購入して以来、抗HCV抗体陽性の糖尿病患者20名が入院しており、装置を使用した患者についてレトロスペクティブな調査を行った。検査を受けた995例中19例が抗HCV陽性であった。これは通常のフランス人における感染率よりも高かった。
8	C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
9	C型肝炎	英国保健省 Press releases 2006/0076 2006年2月27日	汚染された血液を介してC型肝炎に患者がどのように感染したかに関するレビューが発表された。このレビューは1973年から1991年の文書に焦点を当て、実施された重要な決定の分析を行っている。C型肝炎が重篤な結果をもたらすことは1989年に明らかとなり、1991年には信頼できる試験法が開発された。血液製剤の自給ができていたとしても、C型肝炎の感染から血友病患者を防げたわけではないことなどが記載されている。
10	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(30)	2004年に英国の国立血液サービス・保健省感染症センターの感染症サーベイランスに報告された輸血伝播性感染と疑われた症例は34例であった。そのうちE型肝炎1例のみが輸血を介して伝播した感染症と確定された。ドナーが献血23日後に黄疸を発症し、保管サンプルで、HEV RNA陽性を確認した。赤血球輸血を受けたレシピエント(男、65才)は2か月後にHEV RNAとHEV IgMが陽性であった。解析の結果、ドナーとレシピエントのウイルスは同一であることが示された。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
11	E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂取の大衆化と関連すると思われる。
12	E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
13	E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。
14	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。
15	E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで、献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカなどの生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー、ホルモンの喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、その血液検体からHEV-RNAが5例検出された。
16	E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。
17	HIV	AABB Weekly 2005; 11(42): 9	中国で、HIVと自覚していなかった41歳の男性が、2003年1月から2004年6月にかけて15回売血をし、その血液は患者25例に輸血された。そのうち約18例がHIVに感染し、うち3例が死亡した。
18	HIV	AABB Weekly Report 12(13)	ギリシャでHIV陽性にかかわらず供血した男性が「未必の故意」で起訴された。この男性の血液や血漿を輸血された患者2名がHIVを発症した。
19	HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数でみると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
20	HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血漿検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンプロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生の分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
21	HTLV	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年1月20日	カナダNunavut保健局は、HTLV-1に関連して少なくとも1人の死亡例、ならびに20人未満の感染例を報告した。本報告に対応して、Nunavut保健当局および社会サービスは妊婦および一般集団に対し、検査の提供を10月に開始した。2005年12月7日現在、300人が検査を受けたが、感染者およびHTLV-1関連死亡者の正確な数は公表されていない。カナダ血液サービスは1990年以降、献血血液のHTLV-1スクリーニングを行っているが、年間80万供血あたり平均10~12件が陽性である。
22	インフルエンザ	Clin Infect Dis 2006; 42: 14-20	米国アイオワ州で2002年から2004年に、ブタに接触する職業のヒトの血清検体を用いて、動物性インフルエンザウイルス感染について調べ、多変量比例オッズモデルを用いて、対照群(79例)と比較した。農夫群(111例)、獣医群(65例)、食肉処理労働者群(97例)の3群とも、ブタH1N1とH1N2ウイルスについて高い陽性率を示し、農夫群が最も高いオッズを示した。H3N2ウイルスについては3群とも対照群と有意差はなかった。ブタへの職業的暴露はブタインフルエンザウイルス感染の危険性を増大させることが明らかとなった。
23	インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第4週: 5-7	日本におけるインフルエンザの定点当たり報告数は全国レベルで32.4(報告数151,878)となり、増加が続いている。分離報告の99.7%がA型であり、その多くがAH3型である。インフルエンザの流行は西日本から東日本に広がりつつあり、引き続き注意が必要である。
24	ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/nccidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
25	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1253-1256	2005年1月1日から12月1日に、米国42州の596郡からヒトにおける西ナイルウイルス感染2744例が報告された。うち1165例がWNV神経侵襲病(WNND)、1434例が西ナイル熱、145例が非特定であった。89例が死亡例であった。WNNDはサウスダコタなど中部で発生率が高い。トリでの死亡例は5204例、ウマでの感染例は1072例などが報告されている。
26	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
27	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
28	ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。
29	ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
30	ウエストナイルウイルス	感染症雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までプエルトリコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
31	トリインフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に広がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
32	トリインフルエンザ	CDC Emerg Infect Dis 12(6) 2006年6月	2004年1月から、タイでは22名のヒトがトリインフルエンザAウイルス(H5N1)に感染し、内14名が死亡した。2005年11月28日に発症し、12月7日に死亡した患者(5歳少年)の死亡当日の血液検体から生きたH5N1ウイルスが確認された。ヒトの血清または血漿中に生きたインフルエンザウイルスが観察されることは稀であるが、最近ではベトナムでも報告されており、患者の血液検体を取り扱う際にはウイルスの拡大を防ぐための厳重な注意が必要である。
33	トリインフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。
34	トリインフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2005年第51週、52週 合併号: 15-16	WHO/CSR 2006年1月5日の報告。トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
35	トリインフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第2週: 17-18	Nature 2006; 439: 248-249の報告。トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。トルコの株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ヒトに感染しやすくなっている。
36	トリインフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第3週: 13	2006年2月2日にWHOが発表した、2003年から2006年までのアジアにおけるヒトでのH5N1亜型トリインフルエンザの国別確定症例数および死亡例数を掲載している。感染地域が徐々に拡大している。WHOは現在のパンデミック警戒レベルをフェーズ3としている。
37	トリインフルエンザ	J Virol 2005; 79: 10821-10825	2004年にベトナムのブタにおいてH5N1型トリインフルエンザウイルスに関する血清学的検査を行った。ブタ血清3175例中、8例(0.25%)が陽性であった。2004年アジアH5N1型ウイルスのブタでの感染実験の結果、ブタ-ブタ間の伝播は簡単には起こらないことが示された。
38	トリインフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
39	トリインフルエンザ	Nature 2006; 439: 248-249	トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。ヘムアグルチニン受容体蛋白の223位アミノ酸の置換、ポリメラーゼ蛋白の627位アミノ酸置換およびヘムアグルチニン蛋白153位アミノ酸変異である。前者はトリインフルエンザウイルスと宿主細胞表面受容体との結合に、ポリメラーゼ変異は複製に影響を与える。トルコ株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ウイルスをヒトに馴化させていると考えられる。
40	トリインフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリューゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
41	トリインフルエンザ	ProMed20051224-0094	中国で30の省および自治区のうち11月中に8、12月に1の地区の家禽で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。
42	トリインフルエンザ	ProMed20060217-0090	2003年にアジアでトリインフルエンザが広がり始めて以来、25家族の感染が報告されている。兄弟、親子などの血縁が関係する場合は圧倒的多数で、夫婦とも陽性だったのは3家族に過ぎない。同じように感染した鳥に暴露しても発病率に差があることから、遺伝的に感受性の高いヒトがいる可能性がある。しかし、感受性を遺伝子に結論付けるには時期尚早である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
43	トリインフルエンザ	ProMED20060225-0030	韓国保健省当局は、2003年末から2004年前半に、数人のヒトでのトリインフルエンザ感染があったことを確認した、と2006年2月24日に公表した。2003年12月から2004年3月までに、韓国の養鶏場400カ所近くでトリインフルエンザ感染が発生したが、これまでヒトでの感染の報告はなかった。血液検査により、数人の韓国人にトリインフルエンザに対する抗体が産生されていたことが示された。彼らは養鶏業者だが、韓国で家禽類でのトリインフルエンザ流行の際に、有意な症状を示さなかった。
44	トリインフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。
45	トリインフルエンザ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 89-96	2005年9月から2006年1月の間に、中国、インドネシア、イラク、タイ、トルコ、ベトナムでの家禽における高病原性トリインフルエンザのアウトブレイクに関連して、ヒトでのインフルエンザA(H5N1)症例61例が発生した。2003年12月以来、計173例が7カ国で確定されている。WHOインフルエンザ流行準備レベルはPhase 3である。
46	トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
47	トリインフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
48	トリインフルエンザ	WHO 2006年5月18日、5月23日、5月31日、6月6日	インドネシアでH5N1トリインフルエンザに感染したヒト7例中6例が死亡した。感染経路として家禽からヒトへの感染だけでなく、ヒトからヒトへの感染の可能性が指摘されたが、現時点ではヒトからヒトへ効率よく感染することはないと考えられる。
49	トリインフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
50	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家禽農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑い症例2例がHunan省において調査されている。
51	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月5日	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト症例2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
52	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
53	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月2日	1月17日に重症の呼吸器疾患で死亡したイラク北部の15歳の少女が、イラクで初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染ヒト症例であることが確定した。更に2検体が確定診断のため英国の研究所に送られている。イラクでは家禽でのアウトブレイクは確認されていない。
54	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月21日	アゼルバイジャンから英国の研究所に送られた11症例の検体中7症例がH5N1トリインフルエンザ陽性であった。5例は死亡例であった。陽性例中6例は南東部のSalyan Rayonにある小さな部落に住んでいた。Salyanでの調査で、死んだ白鳥の羽を採る作業が若い女性によって行われることが明らかとなり、感染症例の大部分が15から20歳の女性であることから、関連を調査中である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
55	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リューゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
56	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update11):中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で18例目のヒト感染症例を報告した。症例は南西部Sichuans省の8才の女兒で、2006年4月16日に発熱および肺炎を発症し、入院したままである。衛生省によれば、初期調査により家禽の死亡が症例の自宅近くで最近発生したことが確認された。中国における検査確定症例18例のうち、12例が死亡している。
57	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月3日	エジプト保健省によりH5N1トリインフルエンザ感染であると以前報告された4症例について、全例がH5N1陽性であったことが英国の研究所で確定された。2例は死亡し、他の2例は回復した。エジプトは、2003年12月にベトナムで始まった現在のアウトブレイクで、ヒトでの確定症例を報告する9番目の国である。
58	トリインフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
59	トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
60	トリインフルエンザ	侵襲と免疫 2005; 14(4): 105-110	トリインフルエンザに関する総論。トリインフルエンザウイルスの構造、疫学、病原性、ヒトへの感染性、診断法、防疫法について述べている。
61	トリインフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
62	トリインフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2103-2107	2003年12月から2005年5月に、トリインフルエンザA/H5N1ウイルスはベトナム、タイ、カンボジアで100人に感染し、54人が死亡した。大部分はトリからの感染であるが、ヒト-ヒト感染も報告されている。サーベイランス網構築、ワクチン開発、抗ウイルス剤備蓄などが必要である。
63	トリインフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2108-2112	ヒトから分離されたH5N1ウイルスHAは開裂部位に塩基性アミノ酸が連続しており、ヒトへ順化していない段階で50%以上の致死率を示す。また同ウイルスに2ヶ所のアミノ酸変異を導入するだけでヒト型受容体への親和性を獲得する。
64	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。
65	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、プリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
66	BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省 (USDA) の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省 (USDA) によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。
67	BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE: (米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時: 2004年11月、および確定された日時: 2005年6月) 今回報告日 - 2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日 - 2006年3月13日。アウトブレイクの開始日 - 2006年2月27日。アウトブレイクの詳細 - Alabama州の農場 (アウトブレイク開始日 2006年2月27日): ウシにおいて疑い例50例、症例1例、処分1例。感染群 - 約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭 (10才以上)。
68	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食肉用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
69	BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局 (CFIA) は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
70	BSE	ProMED20060217-0521	クロアチアでBSEを疑われるウシ (5歳) が発見された。確定されれば、同国で初めての狂牛病例であり、世界で23番目のBSE感染国となる。
71	BSE	ProMED20060307-0020	スウェーデンで狂牛病第1例 (12才乳牛) が発見された。妊娠後期に起立不能症になり、治療に反応しなかったため殺処分された。迅速診断の結果、BSE陽性であり、次いでスウェーデン国立獣医学研究所でウェスタンブロット法と免疫組織化学染色を行ったところ、いずれも陽性であった。確認のために検体を英国に送ったが、結果はやはり陽性であった。
72	BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシは Santa Gertrudis 種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford 獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
73	BSE	ProMED20060417-0040	カナダ食品検査局 (CFIA) によると、ブリティッシュコロンビア州で飼育されていたウシ1頭で、BSEが診断確定された。今回の症例確認はカナダ産牛肉の安全性に影響しない。
74	BSE	ProMED20060426-0060	2006年4月24日、エストニア農業省は、屠殺場での定期検査 (簡易迅速検査) により、死亡した11才令の乳牛のBSE感染を確認したと発表した。もし診断が確定されれば、今回の症例は同国で初のBSE症例となる。農業省広報部は、問題のウシはエストニア南東部にあるJogevamaa郡の牧場で飼育されていたと発表した。
75	BSE	ProMED20060428-0070	世界各国のBSE症例最新状況、2006年4月24日。世界各国で2001年～2005年に確定診断されたBSE症例数 (OIE2006年4月24日更新統計)。2005年の1年間では大部分のBSE感染国で発生率は低下した。チェコ共和国、日本、ポーランドでは若干症例数が増加した。
76	BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
77	BSE	ProMED20060430-0070	カナダでBSE感染ウシと一緒に飼育されていた15頭のウシが米国に輸出された。米国DOAはこのうち1頭の所在を確認した。他の14頭の所在は確認中である。
78	BSE	ProMED20060504-0040	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果について声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部 (APHIS) プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。当局の調査によれば、問題のウシは10歳令以上でFDAによる1997年の飼料規制令施行前に生まれていた。
79	BSE	ProMED-mail 20060601.1525	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。
80	BSE	ProMED-mail 20060607.1588 [2]	ヨーロッパおよび米国の科学者らは、BSEの新株である可能性があるウシにおける新たなTSEの発生を追跡している。家畜におけるプリオン病に関する国際会議において、フランスおよびイタリアの科学者らは5～15歳の少数のウシにおいてどのようにこの疾患が検出されたかを述べた。この新株は潜伏期間や検査においてBSEと異なる特徴を示し、当初、感染が疑われる死亡動物の調査中ではなく、生存動物を対象にした積極的調査によって発見された。
81	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
82	BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日、16日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁 (CFIA) はBritish ColumbiaのBSE疑いウシの確認検査を実施していることを公表した。このウシはカナダ国内BSEサーベイランスプログラムによりFraser Valley農場で確認された6歳の牝牛である。州による初期スクリーニング検査後、更なる分析のためにWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターに送付された。4月16日、最終的な検査の結果、このウシがBSEであることが確定したと発表した。
83	BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンプロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
84	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(17): 6	英国のCJD患者7例は1970年から2003年の間にヒト硬膜移植により感染していた。J Neurol Neurosurg Psychiatによると、英国CJDサーベイランスシステムはCJD症例全てを把握する計画である。英国ではヒトでのCJD感染リスクは未知であるが、1973年から2003年の間に同治療を受けた患者におけるCJD感染リスクは、オーストラリアでは500例中1例、日本では1000例から2000例中1例と概算されている。
85	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2006; 168: 151-157	vCJD病患者の脳に蓄積する異常プリオン蛋白について、従来の抗体と、1型に特異的な新しい抗体を用いてウェスタンプロット法により検討した。その結果、2型だけでなく、1型も脳内に広く存在することが初めて明らかになった。
86	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症 (TSE) の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
87	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrP ^{Sc} の有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
88	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであった。
89	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
90	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 16(6) 2006年2月9日 SCIEH Spotlight 2006年2月9日 HPS Weekly Report 40(6) 2006年2月14日 Public Agency of Canada 2006年2月10日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。患者は現在生存中である。
91	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
92	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
93	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 251-254	脳内接種により、げっ歯類に適合したBSEまたはvCJDに感染させたハムスターとマウスの骨格筋から、病原体プリオンが検出された。陽性の筋肉検体中のPrPTSE濃度は、脳検体中濃度の500から1000倍低かった。骨格筋のTSE関与のリスクをさらに評価する必要がある。
94	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年~2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45~177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシービエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
95	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
96	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミューラジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
97	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
98	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Forelに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
99	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
100	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型 (MM, MV, VV) のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。、VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
101	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。
102	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA (protein misfolding cyclic amplification) 法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
103	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437 257-261	伝達性海綿状脳症 (TSE) におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
104	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New Zealand J Agricultural Research 2005; 48: 499-515	BSE、スクレイピーおよび慢性消耗病はニュージーランドには存在しないが、サーベイランスは、死後検体をイムノブロット法で検査することにより行われている。最近開発されたイムノブロット法 (CDI) はTSEの株や亜型を区別でき、血液検体中での検出も可能かもしれない。増幅法 (PCMA) は最小量を検出できる。
105	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白 (PrPSc) の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
106	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 5285-5290	ヤギおよびウシのプリオン蛋白の発現を抑制することができるshRNAを、レンチウイルスベクターを用いて、ヤギ線維芽細胞にGFPと共発現させた。これらの細胞を用いて核移植を行い、クローンヤギ胎仔を作成した。クローン胎仔では検査した全ての組織でGFPを発現し、PCRでPrP shRNAをエンコードする遺伝子の存在が確認された。脳組織をウエスタンブロットしたところ、対照胎仔に比べ90%以上のPrP発現減少を示した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
107	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
108	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060405-0020	輸血でだれもがvCJDに感染する可能性がある。しかし遺伝子によってどんな症状が出るかが決定される可能性がある。これまでのところ、ヒトvCJD患者の全例が、ある特定の遺伝的プロフィールを持つ者であった。しかし、国家CJD監視部局と動物保健施設の研究者らのマウス実験によると、他の遺伝子型の者も危険があることが示唆される。Lancet Neurologyによると潜伏期が一部の者で長くなる可能性がある。
109	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/Voten des Arbeitskreises Blut/Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
110	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
111	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
112	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Vet Rec 2005; 157: 206	6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。
113	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Canadian Blood Services	2005年8月15日、カナダ血液サービスは、英国やフランスなどの最新のセーフガード情報に基づき、vCJDに関連した供給停止措置の変更を行った。また刺青やピアスをしている人などに対する一時的供血停止の変更を行った。
114	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
115	変異型クローイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
116	ウイルス感染	CDC/MMWR 2006; 55(03): 65-68	2004年から2005年にかけて米国で発生したヒトにおけるオルフウイルス感染4例についての報告。オルフウイルスはヒツジやヤギなどの小型反芻動物と関係する人畜共通感染症で、接触後に潰瘍性皮膚病変が起こる。医師の認識不足のため、診断の遅れや不必要な抗生物質の使用がみられる。オルフウイルス感染症の危険性や予防に関する認識を広める必要がある。
117	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
118	ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者をを看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
119	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5963-5972	ブタサポウイルス(SaV)の遺伝的多様性を調べるため、1999年から2003年に米国のブタ農場で採取したブタ糞便から検出した9例のブタSaVについてヌクレオチド配列を詳細に調べた。その結果、新しいゲノグループを同定し、組み換え型を同定した。ブタSaVがヒトSaVと遺伝的に近い関係にあることを初めて報告した。
120	ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
121	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。
122	ウイルス感染	ProMED20060118-0162	インドのSullia地域Panja村で30人近くがサル熱(キヤサヌール森林病)に罹患したと疑われている。最近、約5頭のサルの死亡が報告されている。医師によると約16例がサル熱であり、そのうち6例が危篤である。
123	ウイルス感染	ProMED20060204-0090	セーシェルにおいて2000名近くがインド洋の3島に拡がる蚊の媒介する疾患に感染していると政府地域医療局長が述べた。、チクングンヤと診断された患者が2005年11月以降増加しており、2006年1月だけで1000名近い患者が報告されている。
124	ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジシマカの駆除を決定した。
125	ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
126	ウイルス感染	ProMED20060305-0110	2005年3月28日から2006年2月19日の間に、レユニオン島では31人の臨床医ネットワークにより、2406例(2月13日から19日の333例を含む)のチクングンヤ患者が診断された。数理モデルによれば2005年3月からの患者数は157000例にのぼり、うち22000例は2月13日から19日に発症したと推定される。
127	ウイルス感染	ProMED20060402-0040	ホンコンで初のチクングンヤ患者の診断がなされた。モーリシャスの輸入例にほぼ間違いない。この患者は66才中国人男性で、親戚を訪問するため1週間モーリシャスに滞在し、帰国2日後の3月24日にプリンスオブウェールズ病院を受診した。患者は2日前から発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹で発病していた。この患者はモーリシャスの辺地の親戚を訪問し、蚊に刺された。鑑別診断はデング熱であったが、ProMED情報によりチクングンヤが疑われ、検査を実施した。
128	ウイルス感染	ProMED20060414-0010	中国北部の高校で、学生1名が未確認のウイルス性疾患により死亡し、数十名が高熱で入院したため、学校が閉鎖されたと4月12日国営メディアが報じた。北京タイムズによると、医療当局は陝西省での流行がトリインフルエンザではないとする一方で、ウイルスの特定に努力を続けている。この疾患は、3月末にチーシャン郡(Qishan county)の19才の学生が高熱を発したことで明らかとなった。
129	ウイルス感染	ProMED20060507-0030	ターニャウイルスはウエストナイル様の脳炎をヒトに起こしうるウイルスで、ヨーロッパの蚊、ウサギ、トリの間で一般的であり、既にこの様な感染症に罹患し死亡者が出ている可能性がある。毎年50人程度の英国人がウイルス性脳炎で死亡しているが、このうち原因病原体が判明しているのは40%以下である。
130	ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
131	ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
132	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年2月20日	オーストラリアにおいて、蚊により媒介される感染症であるロスリバーウイルスとバーマフォレストウイルスの発症数が増加している。2006年1月中の感染者数は、各々、838例および127例で、過去5年間の平均の約4倍および約2倍と推定されている。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
133	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月11日	インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。ヨーロッパでは帰国者による輸入例が報告されている。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
134	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
135	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
136	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日—2005年9月28日。病因の同一—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細—Colorado州Alamosa郡、Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日～2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例、症例1例、ウシにおいて疑い例67例、症例2例。—Montana州Carbon郡、Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月2日)
137	コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
138	デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
139	デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは、50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて、市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は、10月15日に発症した際、バングラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり、全例が輸入患者である。
140	デング熱	ProMED20060111-0020	インドネシアで2005年12月のデングウイルス感染者数は61名となり、10月の22名、11月の20名に比べ、大幅に増加した。Yogyakarta地域Bantul地区では豪雨が続き、2006年1月にはさらに増加すると思われる。ネッタインマカのボウフラがいない地区は、この地域では67%に過ぎない。雨季に加え、衛生状態が不良であるとも感染者数を増加させている。
141	デング熱	ProMED20060128-0020	ブラジル、リオデジャネイロで過去5週間に発生したデング熱流行により、少なくとも2名が死亡した。2006年1月26日までに217名がデング熱に感染しており、2005年同月の患者数の約4倍に上る。
142	デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
143	野兔病	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1835-1841	野兔病の原因菌であるFrancisella tularensisの北米における分離株161について、遺伝学および地理的多様性パターンを調べた。遺伝学的には4つのグループに大別され、地理的分布に差が見られた。これらの分布は、特異的なベクター、野兔病の宿主などの地理的範囲と関連がある。
144	ボツリヌス中毒	ProMED20060525-0040	オーストラリアにおけるウシの大量死の原因は、稀なボツリヌス菌株による中毒であった。専門家は現在、稀なボツリヌス菌株が、Murray Bridge近郊の酪農場で発生した疾病の原因であると考えている。
145	マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(SS04): 23-37	米国の2004年におけるマラリア症例は1324例であり、2003年より3.6%増加した。海外でマラリアになった合衆国民間人775例の内、CDCが推薦する予防薬を使用した人は20.6%しかいなかった。米国内で感染した4例中3例は先天的感染によるもので、残り1例は研究室の蚊によるものであった。あった。
146	マラリア	ProMed20051015-0070	フランス旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴はない。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
147	ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
148	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC Birth Defects 2005年10月5日	リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)は野生マウスによって運ばれ、ペットのげっ歯類に感染する。ヒトは感染したペットの尿、血液、唾液などから感染し、妊婦が感染した場合には胎児も感染する可能性がある。生まれる前にLCMVに感染した乳幼児は重篤な奇形を有する可能性がある。
149	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(14): 398-399	2005年5月、ペットのげっ歯類から感染したと思われた共通のドナーから臓器移植を受けた3例のレシピアエントの死亡にLCMVが関与していた。同年8月にコネチカット州公衆衛生局はLCMV感染症の最近の発生率、LCMVに関する認識の程度、および検査の頻度について病院検査室および感染症医師の調査を行った。その結果、医師はLCMVを知ってはいるが、LCMV検査は頻繁には行われておらず、LCMVを考慮する必要性を認識していないようであった。
150	レプトスピラ症	Int. J. Syst. Evol. Microbiol 2006; 56: 593-597	タンザニアではレプトスピラ症の感染率は家畜やげっ歯類で一般に高い。家畜から単離されたレプトスピラを血清学的および分子学的に同定を行ったところ、RMIとコードされた単離体は、セログループ IcterohaemorrhagiaeのL.kirschneri種の新しい変異型であり、Sokoineと名づけられた。
151	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会 関東支部総会	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、アメリカモモンガが感染源であった。分離株はLeptospira kirschneri serovar Grippotyphosaと同定された。
152	レンサ球菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。
153	レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週: 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
154	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシンショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。
155	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
156	ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
157	ロタウイルス陽性	第53回日本ウイルス学会学術集会/261	2003年11月から2004年10月に岡山市内のと畜場で採取された成豚の盲腸便について、C群ロタウイルス(CRV)の有無をnested PCR法により検討した。その結果、10検体(1.5%)がCRV陽性であった。またPCR産物の塩基配列を解析したところ、Cowden株に近縁なタイプであった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
158	感染	AABB Weekly Report 2006; 12(3): 4	New Yorkの葬儀店が家族の同意を得ずにヒトの組織を不法にBiomedical Tissue Serviceに販売し、書類が改ざんされ、5社に売られた件に関して、上院議員がFDAに組織移植産業にさらに監視を強めるよう要請した。2005年10月にFDAは同社により販売された組織の回収を始めた。しかし、12月に、背中の手術中に同社の骨片を移植された女性が梅毒に感染したことが報告された。
159	感染	FDA Public Health Notification 2006年3月2日	FDAは、BioMedical Tissue Services(BTS)により回収されたヒト組織に関する情報の更新を医療関係者に通知した。FDAのドナー適格要件に適合していない可能性があったり、感染症について適切なスクリーニングをされなかったおそれのあるヒト由来の骨、皮膚、腱を含む組織はBTSにより回収された。BTSドナーから加工された組織インプラントを受けた患者には感染症伝播のリスクがあることを知らせ、検査を受けるように伝えることを医療関係者に強く求めた。
160	感染	IASR 2005; 26: 306-307	2005年5月27日～6月7日までカンボジアに行き、6月10日～6月13日までハバロフスクに行っていた74歳男性が、帰国後の6月17日頃より咳、発熱などを呈し入院した。耳介の腫瘍より、マダニ刺咬症と考えられ、ライム病と診断された。病原体はBorrelia valaisiana近縁種であった。Borrelia valaisiana近縁種による感染例は世界で初めてである。
161	感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週: 3	日本における2006年第11週(3月23日集計)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
162	感染	ProMed20051030-0050	ナイジェリアJigawa州で原因不明の疾患により54人もの子が死亡し、数人が危篤である。この奇病は、高熱で始まり、2-5歳の小児が感染する。最初、発疹が現れ、まもなく死亡する。現地の医療当局は調査を開始した。
163	感染	ProMed20060322-0040	アンゴラHuambo州Tcholindi村で原因不明の疾患により10人が死亡した。患者は、まず脚が冒され、次に腸に広がり、1週間以内に死亡する。公衆衛生の専門家が近いうちに現地調査をする予定である。
164	感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年3月10日	米国ミネソタ州保健局によると、男性と性交渉を持つ男性(MSM)における感染性梅毒の症例数は2004年と比較して約3倍になっている。MSMの症例のうち約37%はHIVにも感染していた。
165	感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月5日	2004年におけるカナダの感染性梅毒の感染率は10万人中3.5人で、1997年の報告と比較して約9倍になった。特に男性での増加が著しく、2004年の報告例のほぼ90%が男性で、1997年の15倍以上になった。また男性患者の82%が30～59歳である。カナダでの性感染症の1位はクラミジアで2004年には約63000例(10万人中197.1人)が報告され、1997年より70%以上増加した。2位は淋病で、2004年には10万人中28.9人で1997年の約2倍であった。
166	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
167	寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。
168	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/nccidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。
169	結核	ProMED20060201-0040	米国ミネソタ州北東部で家畜の群れ5群がウシ結核に感染し、全て同一株であると思われる。連邦政府はミネソタ州の家畜の売買を制限すると思われる。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
170	口蹄疫	OIE http://www.oie.int/en g/info/hebdo/AIS_27. HTM#Sec10	ブラジルにおけるブタの口蹄疫について、2005年12月7日から22日にはMato Grosso do Sul州で疑い例62が発生した。2005年12月23日から2006年1月6日にはParana州での発生が報告された。2006年1月7日から1月18日には新たなアウトブレイクは報告されていないが、両州では引き続き警戒態勢がとられている。
171	細菌感染	CDC/MMWR 2005; 54(45):1153-1155	2003年11月から2004年5月に北アメリカの港発のクルーズ船で旅行したヒト(940万人以上)の中で、8人がレジオネラ症を発症し、うち2人が死亡したとCDCに報告された。患者8例の平均年齢は55.8歳(23-76歳)で、5つの異なるクルーズ船に乗船し、2例は同じ船旅であった。どの症例についても感染源を同定することはできなかった。
172	細菌感染	IASR 2006; 27: 15-16	種々の抗菌薬が効かず、約2週間にわたり、胆管炎によると思われる発熱を繰り返した61歳の女性から、敗血症の起因菌としてArcobacter butzleriを分離・同定した。日本で初めてのヒトからの検出例である。
173	細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
174	細菌感染	J Hosp Infect 2006; 62: 250-251	ヘパリンの静脈内注入に関連したAgrobacterium tumefaciensによる菌血症3例を報告した。患者から分離された菌は異なった株であった。全例ともカニューレをはずすことで症状は回復した。
175	細菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。
176	細菌感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 1099-1103	新生児集中治療室(NICU)で発生したRalstonia pickettii菌血症患者18例について、非感染のNICU乳幼児を対照として、比較検討試験を行った。統計的に有意な危険因子は示されなかったが、感染群は全員、病院の薬局で調剤されたヘパリン灌流を受けていた。
177	細菌感染	ProMED20051015- 0040	中国衛生部はコレラ患者の増加に対し、警告を発した。中国では2005年6月から9月の間に638人のコレラ患者の報告を受け、そのほとんどは福建省と浙江省であった。
178	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
179	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少であった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
180	日本脳炎	第9回日本ワクチン学 会学術集会/87	2004年度のヒトおよびブタにおける日本脳炎抗体保有状況を、ヒトで8都県約2000人、ブタで33都道県約4000頭を対象に調査した。その結果、現在も日本に日本脳炎ウイルスが存在していることが示された。
181	髄膜炎感染	Lancet 2006; 367: 419-423	中国Anhui省で2003~2004年に発生した髄膜炎から単離された34株のうち31株、ならびに2004~2005年の30株のうち17株がセログループCの髄膜炎菌であった。中国全土の調査で、2004~2005年に単離された542株のうち58株がセログループCの髄膜炎菌であった。106のセログループC株を分析したところ、89株が同一のPFGE(pulsed-field gel electrophoresis)パターンを示し、AH1と名づけられた。
182	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
183	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)O121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC O121が検出された。
184	炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、 19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
185	炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
186	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
187	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。
188	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。